

# TOPPOS

TOKIWA POST

VOL. 25  
SPRING

常磐大学  
 ■大学院  
 ■人間科学部 ■国際学部  
 ■コミュニティ振興学部  
 常磐短期大学

常磐大学高等学校  
 常磐短期大学 附属幼稚園

[2002.3.20.]

発行/学校法人 常磐学園 ■編集/学園報編集室 水戸市見和1丁目430-1 電話 029(232)0007 http://www.tokiwa.ac.jp/

●ハンドベルを学ぶ短期大学幼児教育学科



大学で学ぶべき学問とは一体何なのか…  
 不透明な社会状況の中で  
 現在、大学のあり方そのものが問われている。  
 そこで、浮上してきたキーワードが「実学」だ。  
 常磐大学・常磐短期大学が建学以来取り組んできた「実学」の真の意味を紹介しよう！



●活気のある授業を展開

## 真の「実学」が、大学と社会をつなぐ！

# いまに学ぶ。社会に学ぶ。

## 常磐の実学

●国際学部  
 海外ボランティアを体験する「青年国際協力実習」、企業と連携してマーケティング・リサーチを学ぶ「国際マーケティング」など、アクティブな授業が多い。また、サークル形式で発足した「ヨークルト研究会」は、森永乳業の協力でインターンシップを成功させた。

●人間科学部  
 人間関係学社会科学専攻でフィールドワークの授業を導入しているほか、コミュニケーション学部の「コミュニケーション実習」では、社会調査の実施やビデオの制作も行う。また田原茂行教授のゼミでは学生がドキュメント番組制作し、それが卒業論文となっている。

●コミュニティ振興学部  
 「新しいまちづくり」をコンセプトに実際に街から学ぶ機会が多い。「コミュニティ文化学」では塚原正彦専任講師の指導で「学生カンパニー」を立ち上げ、平成十三年に、南町商店街活性化イベント「イタリアフェア2001」水戸のプランづくりにも参加した。

●常磐短期大学  
 各学科・専攻では数多くの資格取得が可能。授業で身に付けることのできるスキルは、すべて実社会や就職活動と直結している。さらに平成十四年度からは、新カリキュラムを導入。実験や実習を通して「実学」への取り組みを、さらに強化している。

●「箱庭」実験  
 ●人の心理的内面を学ぶ「箱庭」実験

常磐大学・常磐短期大学が建学当初からのテーマとして取り組んでいる「実学」。先行きの見えない社会を反映してか最近はこの実学が注目を集めている。学問に対するアプローチの方向性を実学に沿ったかたちに軌道修正する大学が全国的に増えつつある。いまや社会の要請ともいえる「実学」とは、どのようなものなのだろうか。まず、実学とは社会に出てすぐに役立つ大学での学びであると言ったことができる。そこで、分かりやすい例として考えられるのが資格だ。もちろん資格を取ることは重要な実学のひとつであり、本学でも資格取得を目標としたカリキュラム

●「箱庭」実験  
 ●人の心理的内面を学ぶ「箱庭」実験

●「箱庭」実験  
 ●人の心理的内面を学ぶ「箱庭」実験

●「箱庭」実験  
 ●人の心理的内面を学ぶ「箱庭」実験

●「箱庭」実験  
 ●人の心理的内面を学ぶ「箱庭」実験

●「箱庭」実験  
 ●人の心理的内面を学ぶ「箱庭」実験

するインターンシップもそのひとつ。通常は何も知らない学生が会社に入っていくため、企業側の負担が大きくなり、生も企業見学の域を出ることがなかった。そこで、昨秋に「常磐大学ヨークルト研究会」が行ったインターンシップは、予備調査など事前の準備を十分に行い、新商品のコンセプト立案までを目標として実施。受け入れ先企業の方からも高い評価をいただいた。本学では、こうした積極的なインターンシップをこれからも実践する計画だ。また、社会で遭遇するさまざまな問題をいかに解決するのか、そのプロセスを身に付けることも大切だ。社会に出てから自分の目指す道が変わったり、社会の事情で方向性を変えざるを得なかったとき、自分の置かれている状況に適した問題の見つけ方や解決の方法が分かっているならばスムーズな対応が可能になる。崇高な理論や研究成果を学生に教えるだけでは得られない、社会人としてのスキルアップを図ることが、本学が取り組む「実学」の核と言える。

◎シリーズ25 フキノトウ

### 花から茎まで味わい尽くす日本古来の野草

フキノトウはさつとゆでて水にさらし、あくを抜き三杯酢、あるいはみそと砂糖で煮るほか、汁物の実、てんぷら、フキの葉の上にフキノトウを刻んでみそと混ぜたものをのせ、炭火の上で焼くなどしていただきます。古書『本草備要』には、フキノトウは「心臓をつるおし、五臓を益し、煩を除きたんを消し、のどを治す」と書かれています。食療草として愛されているので、ほろ苦き恋の味なり  
 フキノトウ 久女

キク科の多年草。早春、大きな鱗片のような退化葉に包まれて、散房状に筒状花からなる頭花が、地面から顔を出します。このトウの花が伸びきった頃、長い葉柄の丸い葉が出そろいます。葉柄を「フキ」、花茎を「フキノトウ」と言っています。雌雄異株で地下に横走する根茎を有し、この根茎から出る葉は三十センチから、大きなものでは二メートルに達する葉柄と葉身になります。

野生種は北海道から四国、九州まで広く自生し、朝鮮半島、中国にも分布。日本産の野菜として古くから栽培され、自生しているものも採取利用されてきました。



常磐の四季

# Interview ●就職内定者に聞く

## 就職活動でチャンスをつかめ!

毎年厳しさを増す就職戦線だが、企業が優れた人材を切望していることも事実。より良い活動で自分をステップアップさせるチャンスをつかもう!

**接** 客業に付きたかったというのが、最初にあったんです。それに、自宅通勤が可能で、収入が安定している業種...という、やはり金融関係が一番かなって。でも、私はあまり真剣に就職を考えていなかったため、本格的な就職活動は、金融関係の試験が始まってからのスタート。それが、だいたい六月の半ばくらいでした。もちろん焦りは感じましたね。だから、すぐに就職で資料を集めて電話連絡。その一社目が、みずほインバスターズ証

**明るさと優しさがキーポイント!**

高木 静香 ●短期大学教養学科秘書コース二年  
みずほインバスターズ証券株式会社 内定



券だったんです。

試験は三日間、初日に行われたのは担当の方の企業説明とそれに対する質疑応答。そして二十、三十分程度の面接でした。企業説明は、かなり厳しい内容でした。いまの経済状態を考えると、とても中途半端な気持ちでは駄目だ。それに、証券外務員資格の二種も取得しなければならぬ。決し

てあくはないなって感じました。面接では「あなたが面接官だったら自分を採用しますか?」って聞かれて、ちょっと戸惑ったのを覚えています。その翌日には、数学と国語の筆記試験があって、本社で行われる最終面接。約一カ月の就職活動でした。自分では何が採用に結びついたのでよく分かりません。でも担当の方はこう言ってくれました。「あなたの明るさと、お客様の悩みを聞ける優しさに期待します」って。

**中** 学の頃からニュース番組が好きで、マスコミ、特に報道関係で働きたいと思っていました。自分の中でそれ以外は考えていなかったため、就職活動の開始も早かったですね。最初に面接に行ったのが大学二年の春。そのとき僕の出身地、福島のコミュニティ放送局でアナウンサーの募集があったんです。学歴は関係ないということだったので、受かったら大学は中退しようと考えてました。でも結局、大学は卒業したほうがいいとのこと、

**就職活動の早期開始で差をつけよう。**

松浦 慎太郎 ●国際学部国際協力学科四年  
株式会社福島民報社 内定



落とされましたけど(笑)。

福島民報の試験は、一次が書類審査、二次が面接と論文、三次が一般教養と面接、そして最後に役員面接。新聞社の試験なので、福島民報はもちろん朝日新聞、日本経済新聞、それに週刊ダイヤモンドなど経済の専門誌をマンガの代わりに読み知識をたたき込んで臨みました。その甲斐があつて、面接

の受け答えはうまく行ったんですが、二次の面接のとき「ジョウバン大学ってどの大学?」って聞かれてジョウクでした。新聞社の人が知らないなんて、福島県ではまだ知名度が低いんだなって。それが就職に影響するかどうかは分かりませんが、早い時期から真剣に活動すれば、たいがいのハンディは乗り越えられるんじゃないでしょうか。とにかくいまは、他の有名大学から入社した社員に負けない実績を残すことが大切だと感じています。

**長** 井進先生のゼミで被害者支援の講義を受けたのが警察に興味を持つきっかけでした。警察という正義の味方としてのイメージが強かったのですが、接し方ひとつで被害者が傷つくこともある。そのとき自分の中に問題意識が生まれて、メンタルな面で役に立ちたいと思うようになったんです。

**大切なのは一次試験を乗り切ること。**

植木 雅枝 ●人間科学部人間関係学科教育心理学専攻四年  
茨城県警察 内定



官の話聞いて、本気で警察官になるって。それから、常磐大学の先輩も就職しているし、なにより「いまから勉強を始めてもまだ間に合います」とおっしゃっていたので(笑)。

一次試験は、一般教養、論文試験と体力テスト。体力テストでは、試験官の号令に合わせて腕立て伏せを二十回やりました。私は体力に自信がなかった

たので、ちょっときつかったですね。一般教養では、犯罪の国際化への取り組みなので、英語の試験問題が多かったのには驚きました。二次試験は、面接、適性検査、精密検査。面接では、職場で上司と意見が食い違ったらどうしますか? のようにリアルなことを質問されました。

全体的に見て、警察官採用試験は一次が大切だと思います。少しでも早く勉強を始めることが、成功に結びつくカギになるのではないのでしょうか。



「井当屋のH.O.I.C.H」の発表

**短** 期大学経営情報学科では、課題研究として起業シミュレーションを取り入れている。これは、実際に架空の企業を立ち上げ、経営シミュレーションの立案、売り上げ予測、経費の支払い、そして損益計算などを、ひとつのビジネスモデルとして構築する企業研究。二年生は昨年四月に起業レクチャーを受けてから約一年間を費やしプロジェクトに取り組んできた。

### ◎起業家ぞい 企業を立ち上げ、ビジネスを理解する。

そして平成十四年一月十六日、その成果を発表する起業研究プレゼンテーションが行われた。参加したグループは、中古おもちゃ屋C.S.A.(高野由美さん、鈴木千枝さん、高宮千恵さん)、経営管理代行サービス・有会社「KKDS」(岡田絵美さん、渡會由美さん)、井当屋H.O.I.C.H.(大沼千亜子さん、箕輪弥生さん、渡辺恵美さん)の三組。実際のビジネスを体験するため、昨年の夏休みにはインターンシップとして一週間の企業研修を行っていることもあり、内容も充実。今回発表した箕輪さんは、「会計事務所に就職するので、今回の体験を仕事に役立てたいと思っています」と、実社会で役立つスキルを磨き大きな目的を達成した。指導に当たった坂本徹朗教授は「起業家の立場から経営学やマーケティングの面白さに気付くと同時に、就職したとき企業全体を捉える視野を養ってもらっていた。ね」と総評を語っていた。

## Campus Topics!

### 1 柔道場・剣道場鏡開き

毎年新年の恒例行事となっている鏡開きが、平成十四年一月十一日、学生ホール地下二階の柔道場・剣道場で行われた。出席したのは、学長以下大学職員、体育会・自治会代表など約二十名と剣道部員十名。

声のもと学長と剣道部主将・コミュニティ振興学部コミュニティ文化学科二年の野木慎太郎さんが鏡開きを行った。



●鏡開きを行う諸澤英道学長と野木慎太郎さん

Circle Flash!

まな大会が全国規模で行われている。本学のESSの創部は、平成十三年五月、顧問を務める渡邊真由美専任講師の呼びかけで、英語が好きな学生たちが集まった。現在の部員は全員二年生の九名、通常の活動内容は、週一回水曜に行われるミーティ



英語で展開するディベート

英語を楽しみながら国際人としての高いスキルを養う。

いまや日常生活の中でも、必要性が高まっている英語力。その英語を楽しみながら、活動を展開しているのがESS (English Speaking Society)だ。このESSは、全国の大学でも数多く組織されるグループで、さまざま

Circle Flash! サークル紹介

第9回 ESS



●渡邊先生を囲んで(合宿)

も自由英会話の時間を多く設定し、英語力の向上が図られた。またESSは、本学国際交流会館で二回の合宿を行っている。一回目は昨年八月の四日・五日、創部したばかりとあって、部員間の交流をメインに自由英会話などを行った。二回目の合宿は十一月二十九日・三十日・三十一日の三日間、前回よりも自由英会話の時間を多く設定し、英語力の向上が図られた。

部長を務めるのは、国際学部国際ビジネス学科一年の小峯千明さん。「今後の活動では、他大学との交流にも力を入れていく考えです。英語が好きでやる気のある方、一度気軽にESSを覗いてみてください。」活動の幅を広げるため、いまは部員を増やすことが課題となっている。国際社会で求められる生きた英語力を身に付けるためには、こうした部活動への参加が一番の近道だ。

ングと、木曜日の四時限目に行われるアクティビティ。ミーティングでは、合宿のプラン作成や活動に対する意見交換をはじめ、簡単な英語のゲームや自由英会話をしている。また、海外旅行や留学に関する情報交換の場としても活用される。アクティビティは基本的にディベート。事前に決めておいたテーマに沿って、英語での討論が繰り返される。またESSは、本学国際交流会館で二回の合宿を行っている。一回目は昨年八月の四日・五日、創部したばかりとあって、部員間の交流をメインに自由英会話などを行った。二回目の合宿は十一月二十九日・三十日・三十一日の三日間、前回よりも自由英会話の時間を多く設定し、英語力の向上が図られた。



●反響を呼んだ上映会

**実** 映像作品上映会「第三回 IMAGE LOVE」が平成十四年一月二十日、水戸ハートホールで開催された。この上映会は、石原直子に所属する学生たちの自主制作映像(ドラマ・MV)を一般公開するイベント。多くの人に作品を鑑賞してもらいたいとさまざまな意見に触れ、作品のレベルアップを図ると同時に新たなコミュニケーションの場を提供することも目的としている。上映会当日は三十名を超える来場者が詰めかけ、会場は完全に満席状態。アイデアを活かした十五本の作品が次々と登場、二時間三十分の上映会となった。

考えをカタチにする技術 "IMAGE LOVE"

この上映会を主催したのは、人間科学部組織管理学科三年の伊藤麻美さんと人間科学部組織管理学科三年の坂本直子さん。二人もすべてが初めての経験で、段取り

「石原直子さんは、自分のアイデアをカメラに乗せる...そんな技術を学べるゼミです。初心者でもまったく問題はないので、メディアに興味のある方は、是非このゼミを利用してください。」記憶に残る映像をテーマに、坂本さんは創作活動を続けている。メディアに対する「センスを磨く」ことは、これからの社会でも重要なスキルになるだろう。



●坂本直子さん

●伊藤麻美さん

Campus Topics!

2 常磐大学・学長交代

●盛大に行なわれたパーティー  
諸澤正道常磐大学学長が、平成十四年一月三十一日付で退任した。諸澤学長は、二代目学長として平成三年四月から四期十年間学長を務めた。後任には諸澤正道理事が、常磐短期大学学長が就任した。



諸澤 正道 新学長



幼い頃から阪神ファンで、江夏氏とも交流の深い波多野教授は「こつこつと、いち研究者として資料を集め検証することで、これまでのスポーツジャーナリズムで言われてきた、「一匹狼的なイメージとは違う姿を浮き彫りにしたかったんです。若い読者には生きる誇りを、年配の方には江夏さんの有終の美を感じていただきたいですね。」念願の出版を果たした波多野教授のもうひとつの願いは本学野球部の優勝今年こそ、神宮での勇姿を期待したい。

出版記念パーティーが開催された。この本は、本学硬式野球部部長を務める国際学部の波多野勝教授が構成・執筆を担当したもので、プロ野球選手江夏豊氏の野球人生が詳細に綴られている。江夏豊氏は、昭和四十二年にドラフト一位指名で阪神タ



Scoop!

波多野勝教授・構成 「左腕の誇り」出版記念パーティー開催

平成十四年一月十九日、水戸京成ホテルにおいて、江夏豊自伝「左腕の誇り」



草思社 1,500円

いま大学で何を学ぶべきか、さまざまな議論を呼んでいる。沈滞ムードが漂う日本社会を変えるためには、一体、どんな人材が必要なのか？ その答えのひとつが、佐藤教授の授業で明らかにされている。『明るく楽しい』『日本をつくる、その生き方を学んでみよう！』

短期大学 佐藤 啓子教授に聞く  
—— オフィス・スタディーズ ——

# キラキラ輝く『生き方』を 学生たちに伝える

現実の社会を生き抜く  
質の高いスキルを養う

「人生の中で発生するさまざまな問題に『働く』ことをちりばめ、世代ごとに考えていく。つまり、人間の生き方を学ぶのが私の授業です」

オフィス・スタディーズという、ビジネスに限定されたノウハウを身に付ける学問のように捉えがちだ。しかし佐藤教授の授業は、限定された領域だけで展開されるのではない。人間の『より良い生き方』という大きなテーマの中に、仕事というひとつのシーン



●平成十三年度課題研究「運根純」

が存在しているのだ。

「職場で起るトラブルにどう対処し、どう解決すれば自分のスキルの中に組み込むことができるのか。それを知るためには、問題を発見し、分析し、解決するための思考能力を育てる必要があるんです」

学生の思考能力を向上させるには、学生一人ひとりが積極的に問題に取り組まなければならない。そこで、使用する教材も学生たちが興味を抱きやすい、身近な事例を取り上げている。例えば『職場の一日』というVTRを見れば、『コミュニケーションギャップから生まれる会社でのトラブルや、ミスの生じやすい場面を疑似体験する。こうして、起こりうる問題を予測する能力を身に付けることで、現実の社会を乗り切るスキルを養う。』

「他にも、卒業生のデータをもとに作成した教材で、ケーススタディーも行っています。学生たちの関心は、現実に起きている問題ですから」

## 自分を表現することは 『生きる』ことに通づみ

大学で学ぶ学問は、一生を支えるものでなくてはならない。これまで知ら

さとう けいこ  
東京都立大学大学院人文科学研究科  
修士課程修了。専門はオフィス・スタディーズ。日本ビジネス実務学会  
副会長、全国大学・短大実務教育協  
会理事。教養学科長。昭和五十八年  
四月より現職。



なかつたことを知る。つまり、知らない領域があることに気づき、知る努力をする。すると、また新しい『知らない』が見えてくる。この連続した思考を築く最初のステップが、読むことと書くことだ。

「読むことは、他人の考えを理解すること。書くことは、自分の考えを論理的にまとめ表現すること」

授業では、まず『生きるとは？』『仕事とは？』といったテーマを決め、それに対する哲学者や知識人の考えを提供する。それに対して、学生が自分の考えを書く。

「新聞の記事も、教材としてよく使います。良い記事をコピーしてノートに貼り、それに対する自分の考えを書き込んでもらっています」

もうひとつ大切なポイントは、発言すること。社会生活を営む上で人と人とのコミュニケーションは非常に重要だ。そして、その円滑なコミュニケーションに会話の欠かせない。

「考えることができて、発言しなければ何にもなりません。自分の考え

や意見を人に伝えることは、すなわち生きること。人を理解し、自分を理解してもらうことが大切なんです」

## 学生たちが輝きだす 共に学ぶ授業を展開

こうした授業の成果が結集した一冊の本がある。『運根純〜人生の栄光と陰〜』と題されたこの本は、二〇〇一年度の課題研究として制作されたもの。内容は十五名の学生たちが、それぞれ一人の有名人物を取り上げ、その生涯を追うかたちで構成されている。学生の編集後に、『努力とは、形として残すことが出来るのです』と書かれていたように、書き記すことはそこに時間を留めておき、何年後かに、もう一度その時のかけがえのない記憶を呼び覚ましてくれる。

「中には、教員である私が影響されるほど、問題の捉え方が優れた学生もいます。そんな学生の意見を他の学生にも公開し、またそこから新しい分析を試みる。学生たちの相乗効果は本当に素晴らしいですね」

高校までは発言する機会が少なく、才能が埋もれている学生も多い。しかし佐藤教授の授業によって、学生たちは見違えるように生き生きと輝きだす。

「私は自分が大学で受けた幸運を、学生たちに返してあげたいと思っています。大学の教員は、自分が学んだことを伝えることができる、本当に幸せな仕事。だから毎日、学生や大学に感謝しながら、全力で教育に取り組んでいます」

常に『明るく楽しい』佐藤教授は、生きることに素晴らしさを、身をもって学生たちに伝えていくかのようだ。

## High School Topics!

# 高校総体をバックアップ

全国の高校生アスリートたちが一堂に会す  
大イベント『インターハイ』。  
その成功を支える陰の主役たちに注目!

## 「二人一役委員会」は 力強いサポーターだ!

平成十四年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)が茨城県で開催される。そのインターハイを陰で支える高校生たち。それが「一人一役委員会」だ。この委員会は県や市単位でも組織されて

おり、常磐大学高校でも生徒会の一部として平成十三年



●マスケットの試作品を製作中

## Tokiwa University High School

四月より活動している。主な活動は大会の花でもあるマリーゴールドとサルビアの栽培や記念品の作成、そして大会補助員としても大会をサポートすることなど。



## ●常磐大学高等学校

平成十二年の岐阜大会視察に参加した中心スタッフの畔野あすかさん(二年)は、「陰で支える活動の大切さがよく分かりました。全国から集まる選手の方々に、常磐大学高校のことを知ってもらいたいですね」と大会が待ち遠しそう。指導に当たる秋津由佳先生は「目標をやり遂げたときの達成感を味わい、選手の方々に心から応援できる大会を期待しています」と語っていた。それぞれの思いを乗せて、インターハイは八月に幕を開ける。

## 編集後記

ソルトレーク冬季オリンピックが開幕した。選手たちの活躍はまさに感動の一言だが、審判の不正疑惑が噴出するなど後味の悪さは否めない。真偽のほどは定かではないが、選手たちのこれまでの努力に水を差したことは事実だろう。

社会では、予測できないトラブルが起きることもある。そこで人間一人ひとりが正しい判断を下せるかどうか、社会のあり方を大きく左右する。本学が取り組む「実学」や、佐藤教授のオフィス・スタディーズは、こうした問題解決能力を向上させることも目的のひとつ。今後の日本社会を担う学生にとって、非常に重要なテーマだ。

今年八月にはインターハイが開催される。こちらは選手や一人一役委員会など関係者たちが、くもりのない輝きを放つ素晴らしい大会になるだろう。

\*TOPOSに対する御意見は kouhou@tokiwa.ac.jp. までお寄せ下さい。  
\*この広報紙は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。